【調査サマリー】建設業界人が思う「進まぬデジタル化の実態」は「施工・専門工事」「施工管理」で 58.4%

調査実施概要	
調 査 期 間：2023 年 2 月 15 日～2 月 22 日	回 答 数：1,000 名
調査対象者：全国の建設業界従事者	調査方法：インターネット調査（ゼネラルリサーチ株式会社）

【目次】

調査①「デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのでは、という不安」 1
●【規模別】【業種別】【役職別】の結果 2
調査②「使いこなせるとよいと思うデジタル技術（機器・ツール）」※複数回答 3
●【使いこなせるとよいと思うデジタル技術（機器・ツール）を選択した理由】※主要なものを抜粋 4
調査③「デジタル化できれば生産性向上に繋がると思う業務」とその理由 5
●【業種別】デジタル化で生産性向上に繋がると思う業務 6
調査④「デジタル化が難しいと思う業務」とその理由 8
●【業種別】デジタル化が難しいと思う業務　※複数回答 9

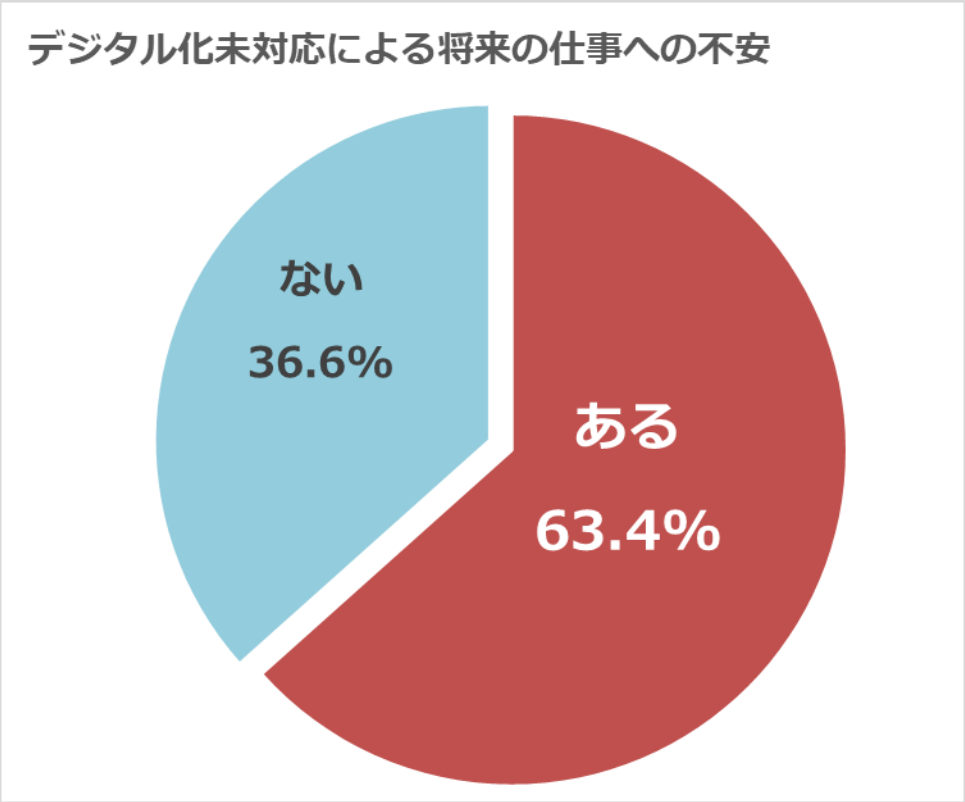
【結果詳細】

＜結果総評＞

- **デジタル化に対応できないと将来仕事が減るという不安がある方は、全体の 63.4%。この結果から、デジタル対応が必要であることは建設業界従事者においても認識されているが、BIM を実際に使用している方は全体の 36.2%との結果と併せて考察すると、不安がある一方でデジタルツールの導入は進んでいないという矛盾・ジレンマもうかがえる。**
- **「使いこなすことができればよいと思うデジタル技術（機器・ツール）」の第 1 位は設計補助ツール（BIM）との結果から、BIM の活用が、人材の確保や収益性の改善など、誰にとっても魅力的な建設業界への切り札として期待されている一面もうかがえる。**
- **デジタル化を進めて欲しい業務は多く、人手不足解消、業務効率化、ミス軽減、などへの期待の声が背景にある。**

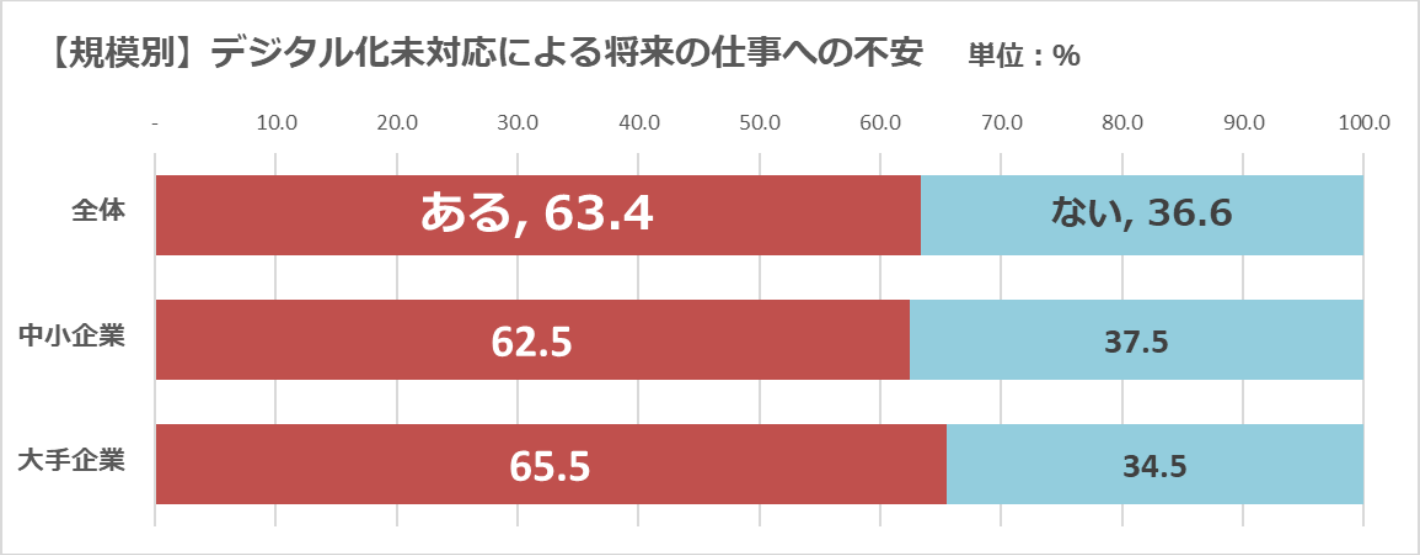
調査①「デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのでは、という不安」

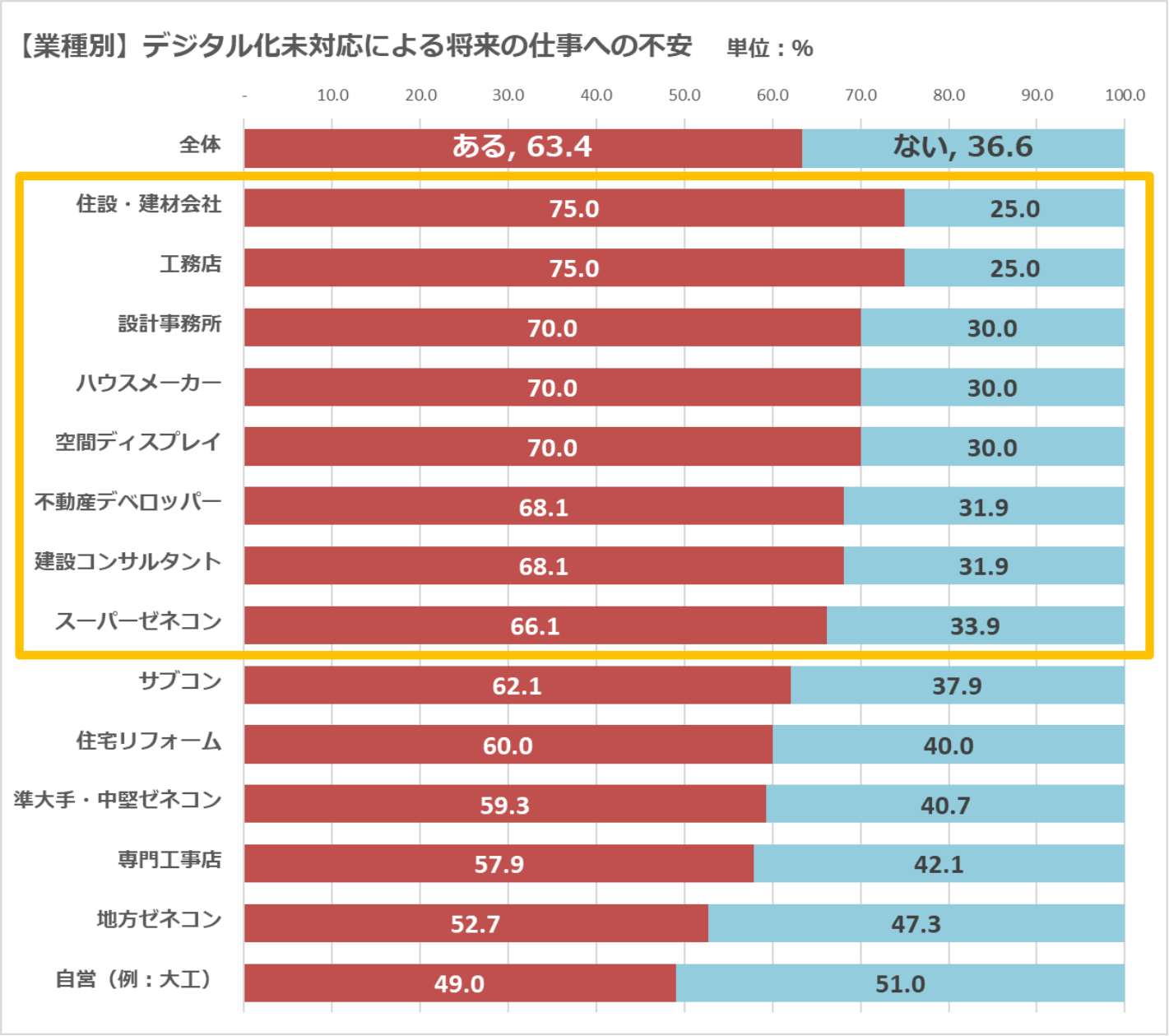
「デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのでは」との不安がある方は全体の 63.4%で、デジタル対応が必要であることは、建設業界従事者においても認識されていると推測できます。

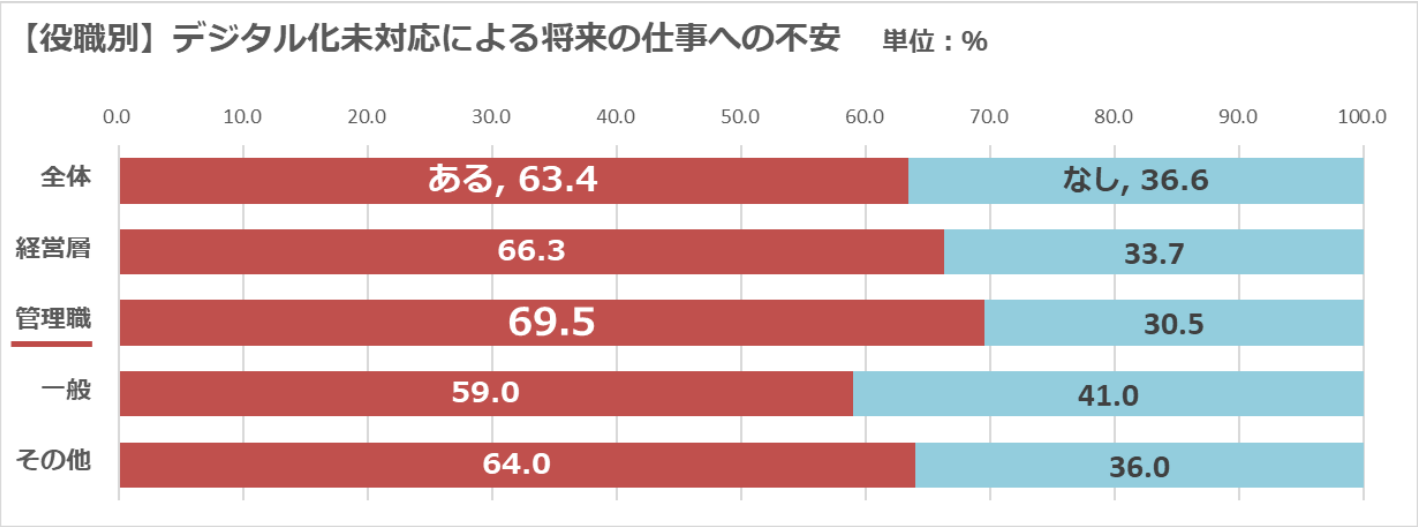


●【規模別】【業種別】【役職別】の結果

規模別では中小企業よりも大手企業の方が、業種別では黄色枠で囲んでいる 8 業種が、役職別では管理職が「デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのでは」との不安を感じている割合が多い結果となりました。

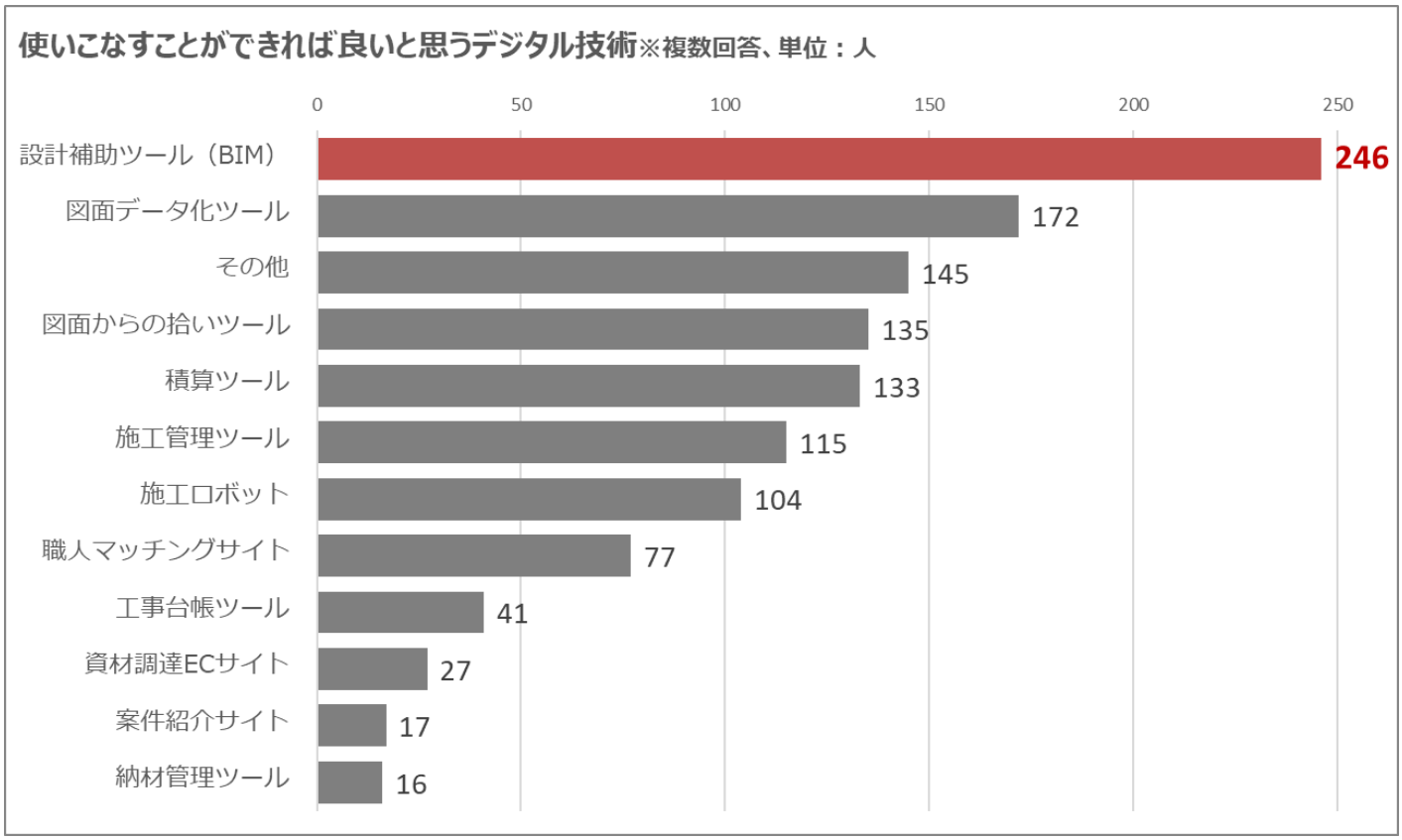


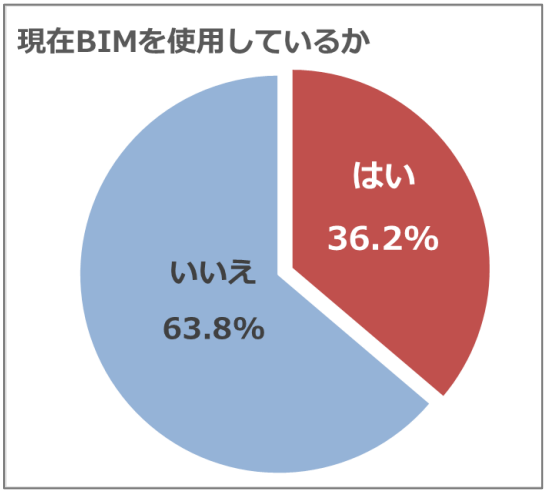


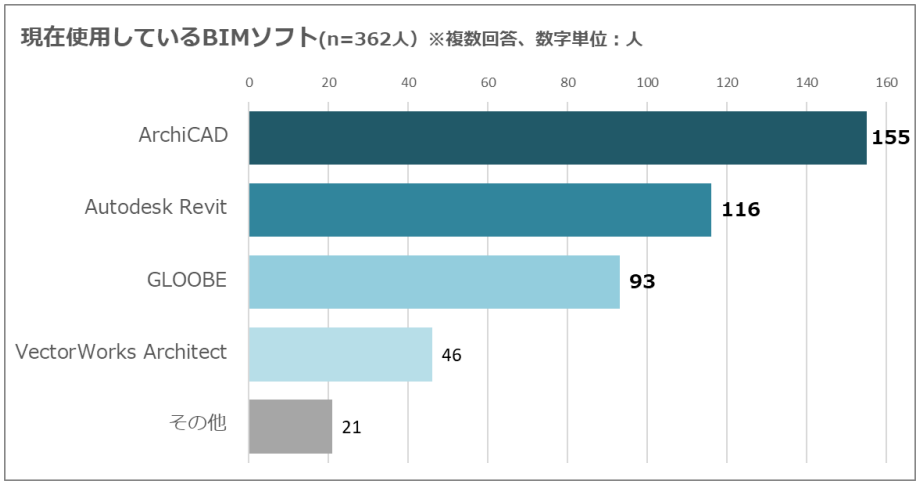


調査②「使いこなせるとよいと思うデジタル技術（機器・ツール）」※複数回答

「使いこなせるとよいと思うデジタル技術」の 1 位「設計補助ツール（BIM）（246 人）」でしたが、実際に使用している建設業界従事者は、全体の 36.2%にとどまりました。







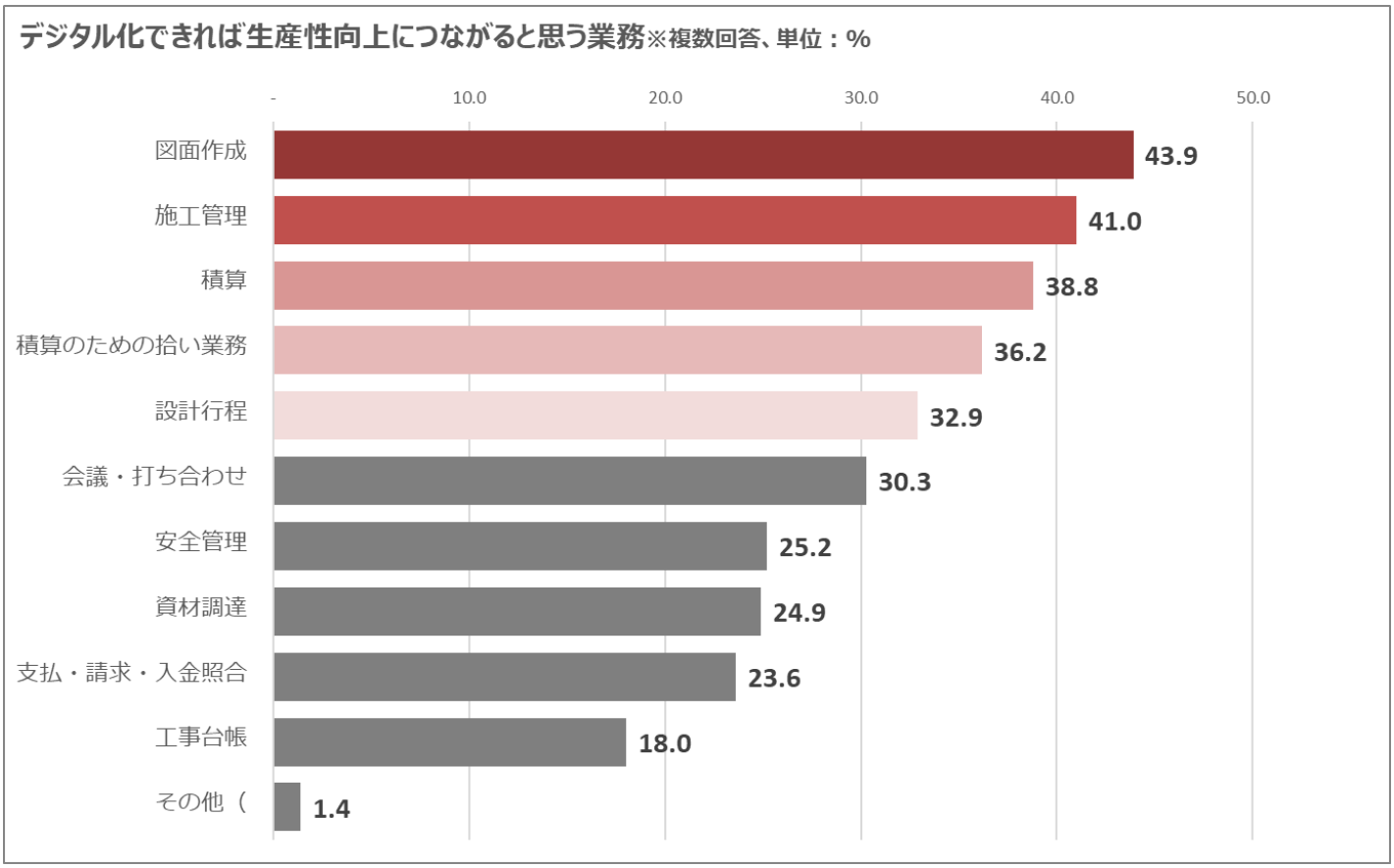
●**【使いこなせるとよいと思うデジタル技術（機器・ツール）を選択した理由】**※主要なものを抜粋

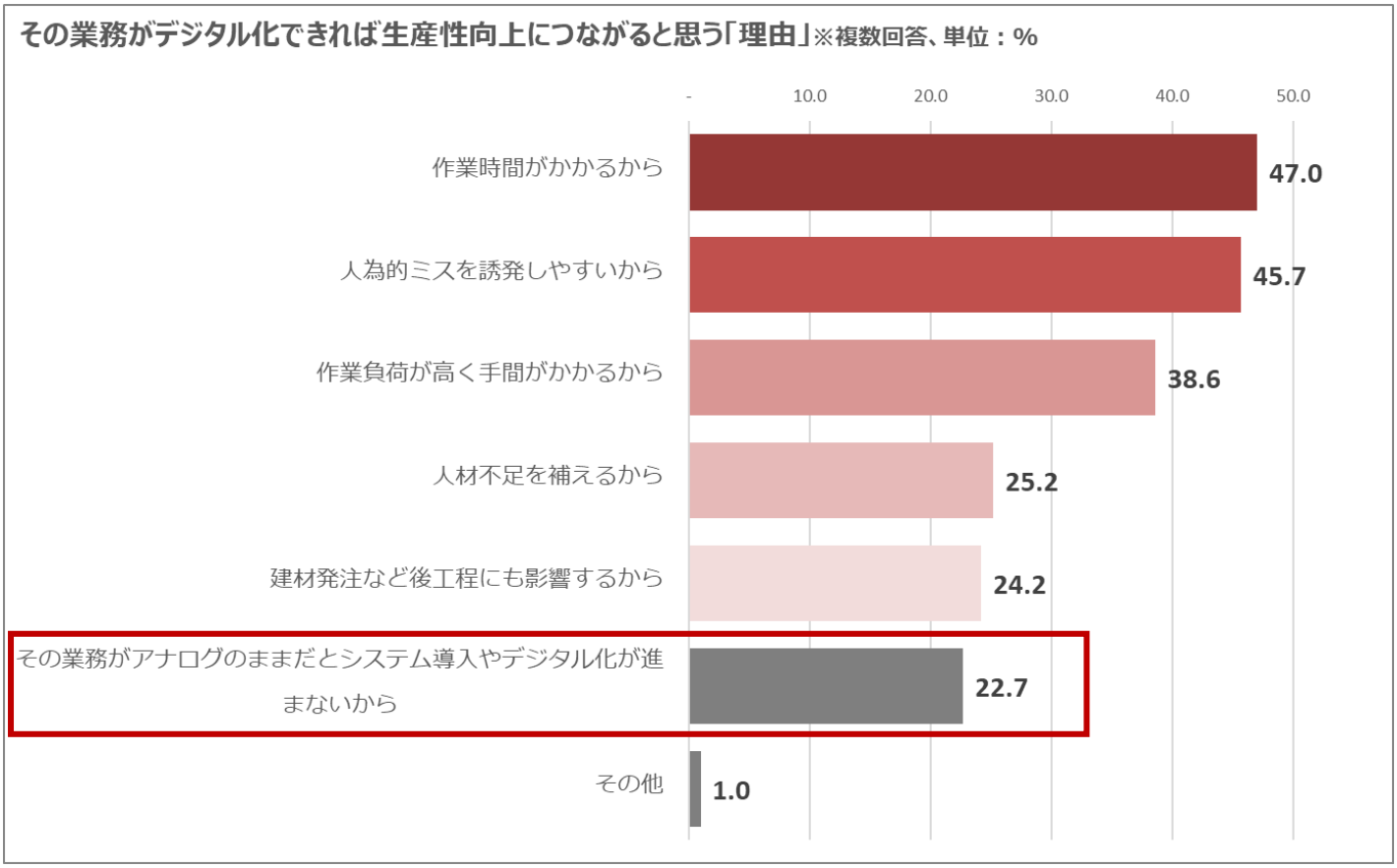
それぞれに共通するキーワードは、「ミスの削減・防止」「工数削減」「省力化・効率化」が挙げられます。

1 位：設計補助ツール（BIM）　24.6%	
	● 3D 化は提案から施工まで有効活用出来る ● 3 次元化で数量まで拾えれば設計ミスの最小化 ● データの統一が可能 ● **ミスが減るから** ● 意匠構造設備の設計が一元化できる ● 間違いをなくせる。 ● 業務効率化に繋がるから ● 見積もりやお客様説明への貢献が強く見込めるから ● 現調をデータで表せれば図面作成がスムーズ ● 後々の管理も出来るから ● 工事工数や積算と、設計が連動するから ● 人材不足が解消される ● 設計支援のみならず、施工現場内の安全管理にも寄与できると思うから
2 位：図面データ化ツール　17.2%	
	● 現地で追記修正が出来るから ● 人材不足が解消される ● 手書きデータをいちいちインプットしなくて良いから ● データベース化出来れば使い回せる ● 古い図面の永久保存が可能だから ● 紙の図面をデータにするのは手間だから ● **工数削減** ● **作業の効率化**
3 位：その他　14.5%	
	※「特になし」のコメント多数 ● 書類管理システム。紙での管理だと書類紛失や、持参等の手間が省ける ● 図面データ化は出来てもタブレット端末の用意やシステム構築など難しい問題があると思う
4 位：図面からの拾いツール　13.5%	
	● 図面からの拾い方はほぼ決まっているので、デジタル技術を一番効率良く使えると思う ● 手で拾うのに時間がかかるため ● 計算手間の省略 ● 落としがなくなるから ● **人為的ミスを減らせる** ● ペーパーレス化促進 ● 隠れている場所や込み入ったところの見落としが防げる ● 細かく拾わないと見積り段階で損をするから ● 人の目で確認して計算するより、正確な数字が出せそうだから。ロスが減ると思う
5 位：積算ツール　13.3%	
	● **見積時間の短縮** ● **人為的ミスが減る** ● **省力化・業務効率化につながる** ● 現場で都度の見積もり・手拾いは時間がかかるうえに、同じ作業の繰り返しだから ● 費用が早くわかれば、その分現場納期に余裕がでるから

調査③「デジタル化できれば生産性向上に繋がると思う業務」とその理由

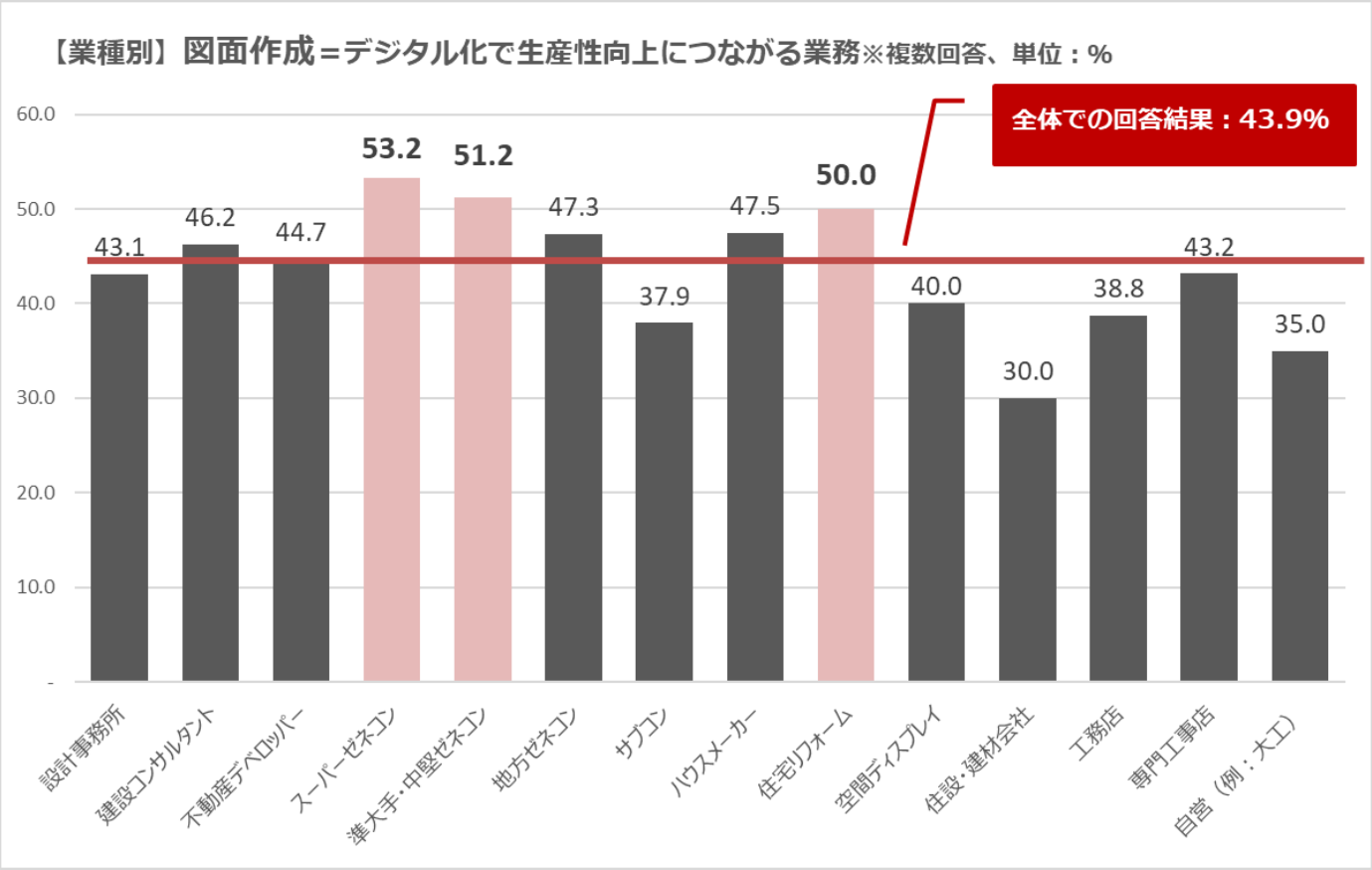
デジタル化で生産性向上に繋がると思う業務の上位 5 位は、図面作成、施工管理、積算関連業務でした。
その理由として、業務効率化、人為的ミス軽減、人手不足解消、などへの期待が上がっていますが、6 位の「その業務がアナログのままだとシステム導入やデジタル化が進まないから（22.7%）」も、業界全体で DX を加速させる上では注目したい結果と言えます。※複数回答

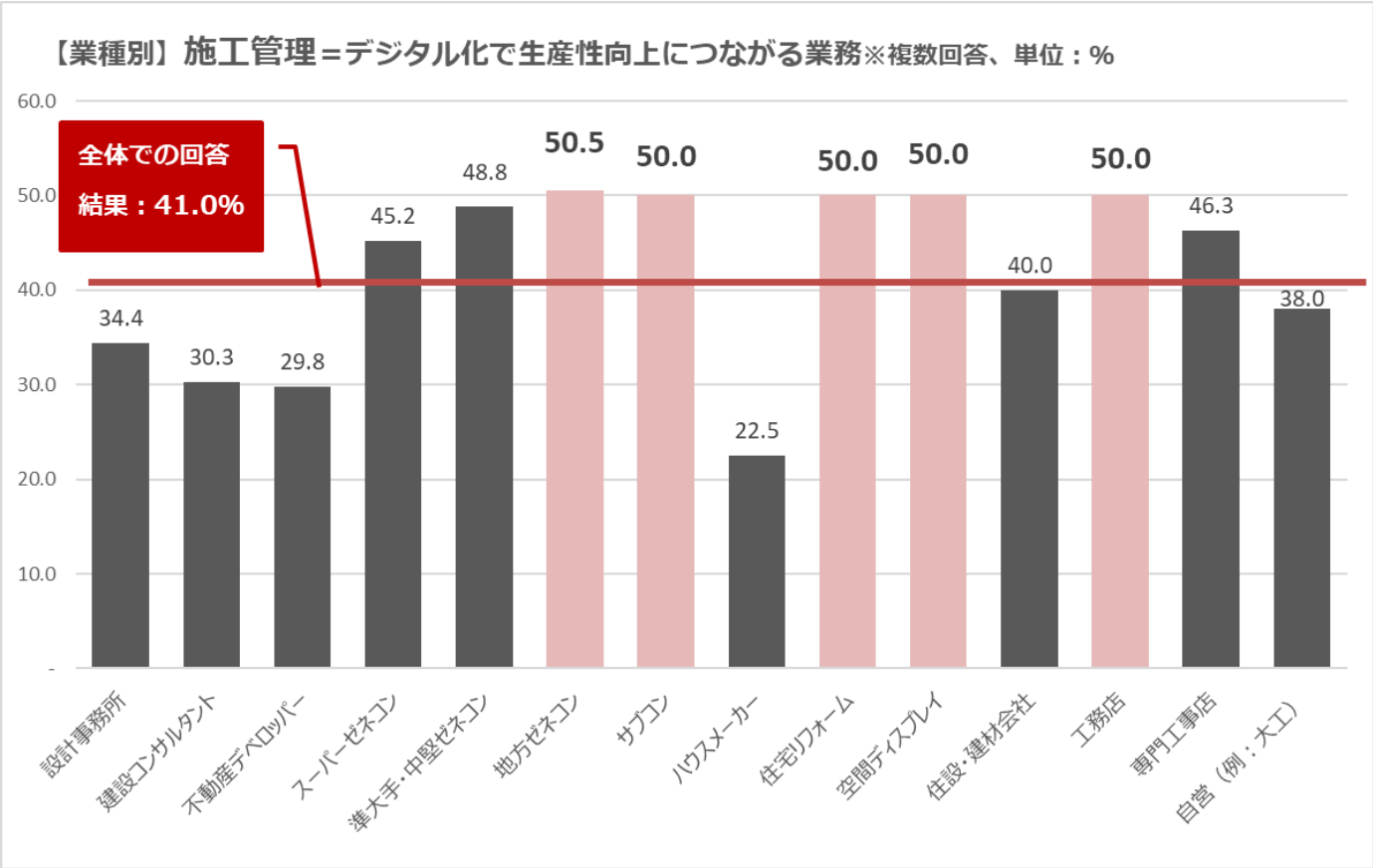


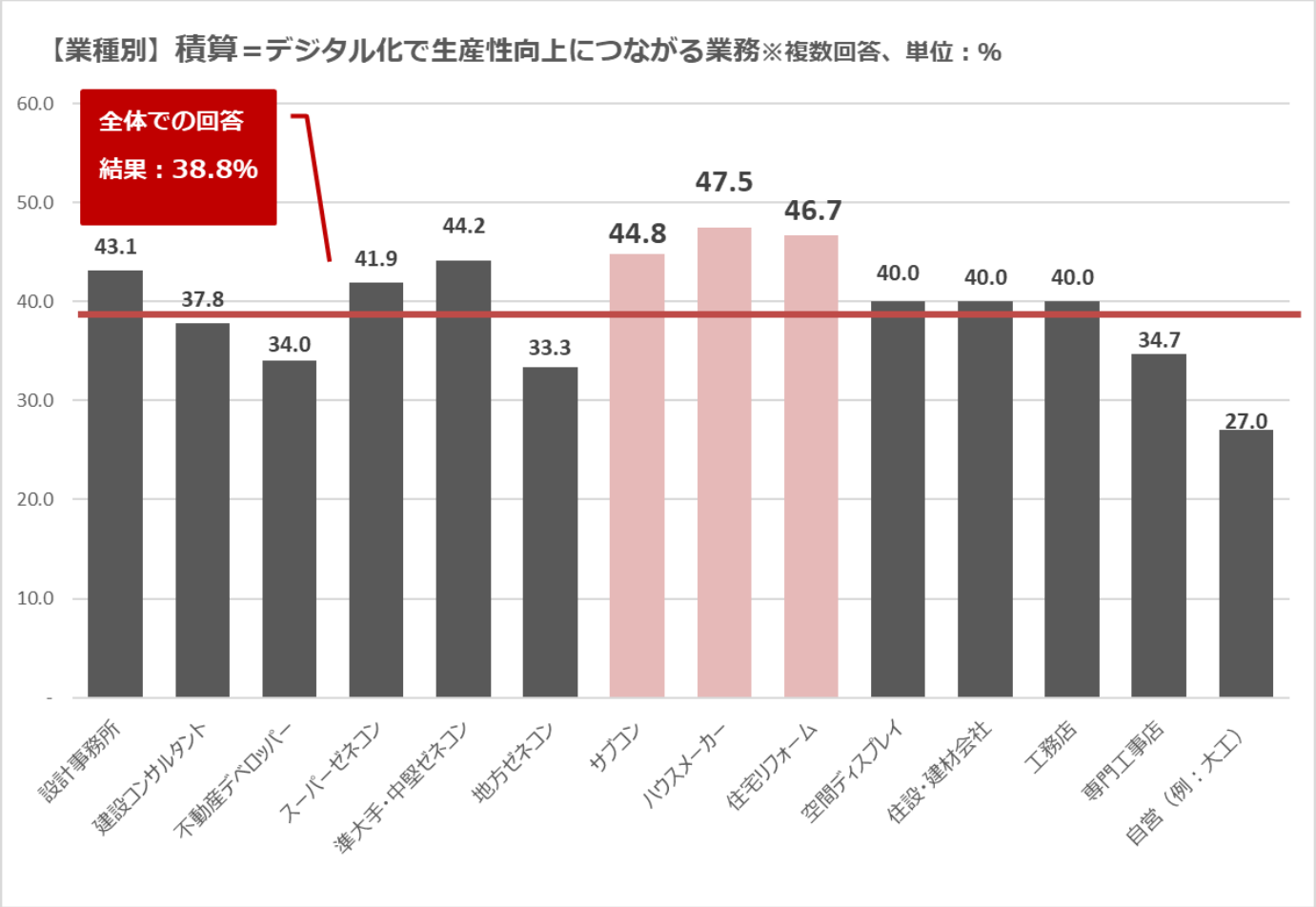


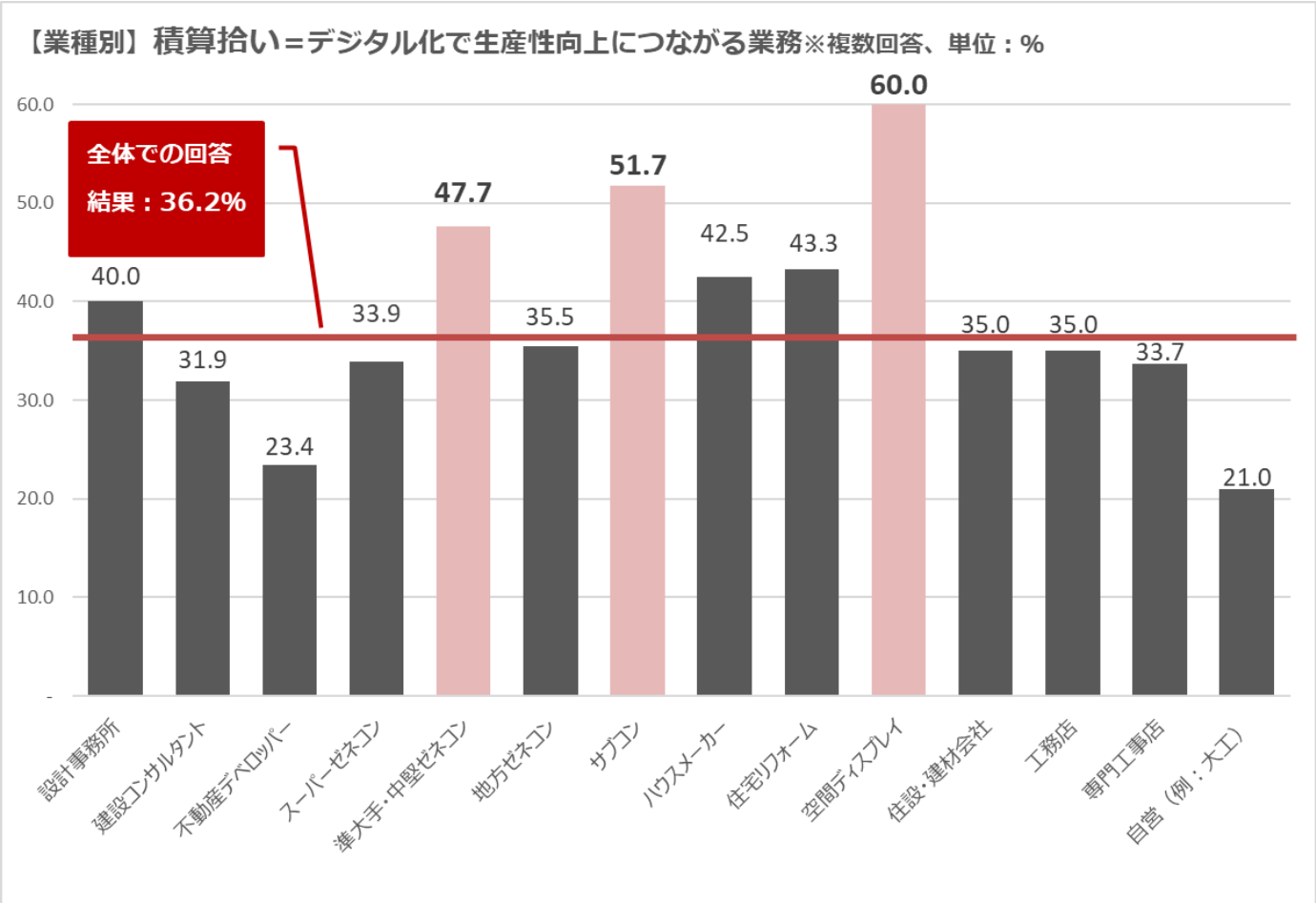
●【業種別】デジタル化で生産性向上に繋がると思う業務

業種別に、図面作成（全体 1 位：43.9%）、施工管理（全体 2 位：41.0%）、積算（全体 3 位：38.8%）、積算のための拾い（全体 4 位：36.2%）が「デジタル化で生産性向上に繋がると思う業務」に選ばれている割合を見てみると、次の通りでした。






【業種別】積算＝デジタル化で生産性向上につながる業務※複数回答、単位：%
全体での回答
結果：38.8%
60.0
50.0
40.0
30.0
20.0
10.0
-
43.1
37.8
34.0
41.9
44.2
33.3
44.8
47.5
46.7
40.0
40.0
40.0
34.7
27.0
設計事務所
建設コンサルタント
不動産デベロッパー
スーパーゼネコン
準大手・中堅ゼネコン
地方ゼネコン
サブコン
ハウスメーカー
住宅リフォーム
空間ディスプレイ
住設・建材会社
工務店
専門工事店
自営（例：大工）


【業種別】積算拾い＝デジタル化で生産性向上につながる業務※複数回答、単位：%
全体での回答
結果：36.2%
60.0
50.0
40.0
30.0
20.0
10.0
-
40.0
31.9
23.4
33.9
47.7
35.5
51.7
42.5
43.3
60.0
35.0
35.0
33.7
21.0
設計事務所
建設コンサルタント
不動産デベロッパー
スーパーゼネコン
準大手・中堅ゼネコン
地方ゼネコン
サブコン
ハウスメーカー
住宅リフォーム
空間ディスプレイ
住設・建材会社
工務店
専門工事店
自営（例：大工）

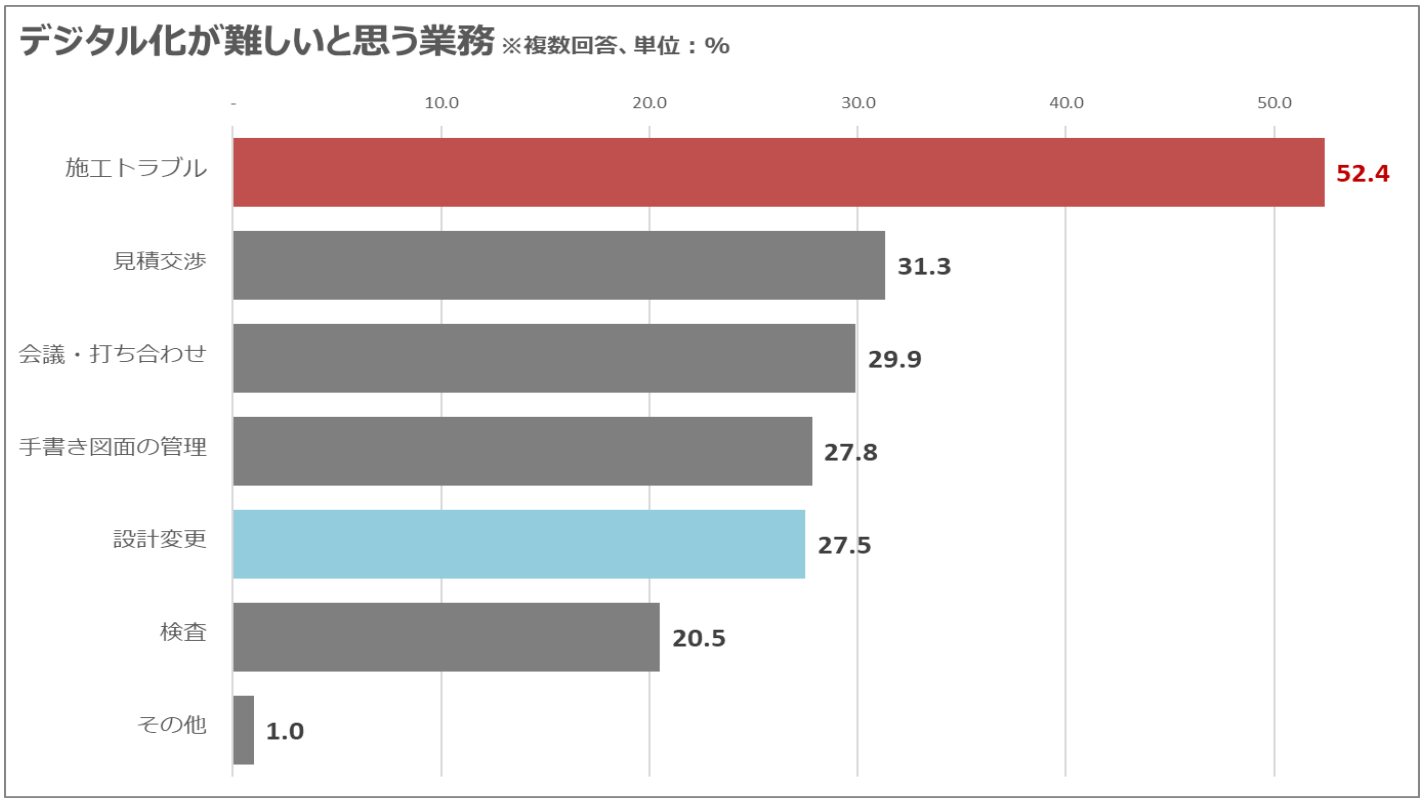
調査④「デジタル化が難しいと思う業務」とその理由

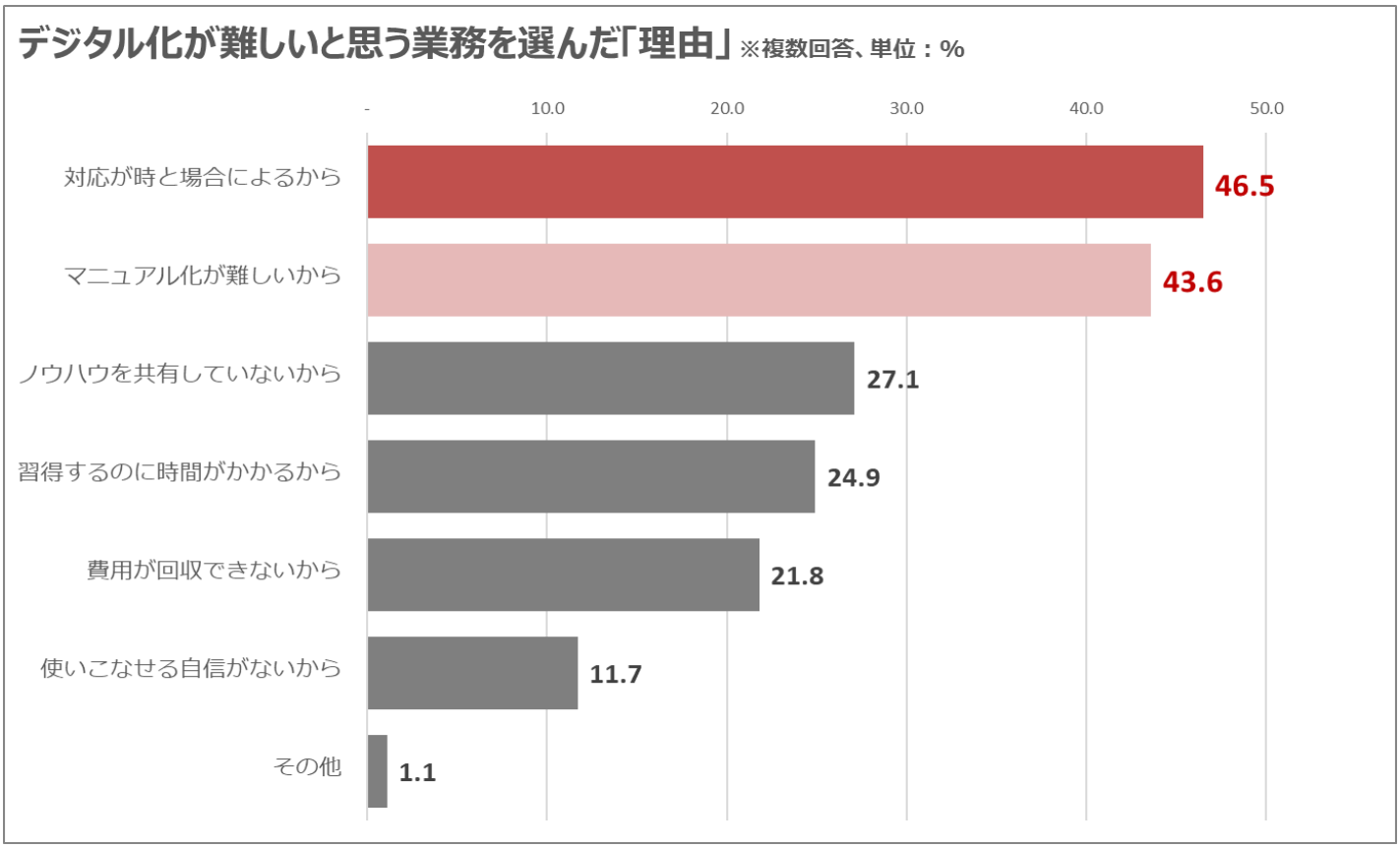
「デジタル化が難しいと思う業務」の 1 位は「施工トラブル（52.4%）」、「デジタル化が難しいと思う業務に選んだ理由」の 1 位は「対応が時と場合によるから（46.5%）」でした。※複数回答

建設業の特徴の一つである、個別生産（固有の土地に密着して建設するので、同じ内容のものがない）が背景にあるものと推測できます。

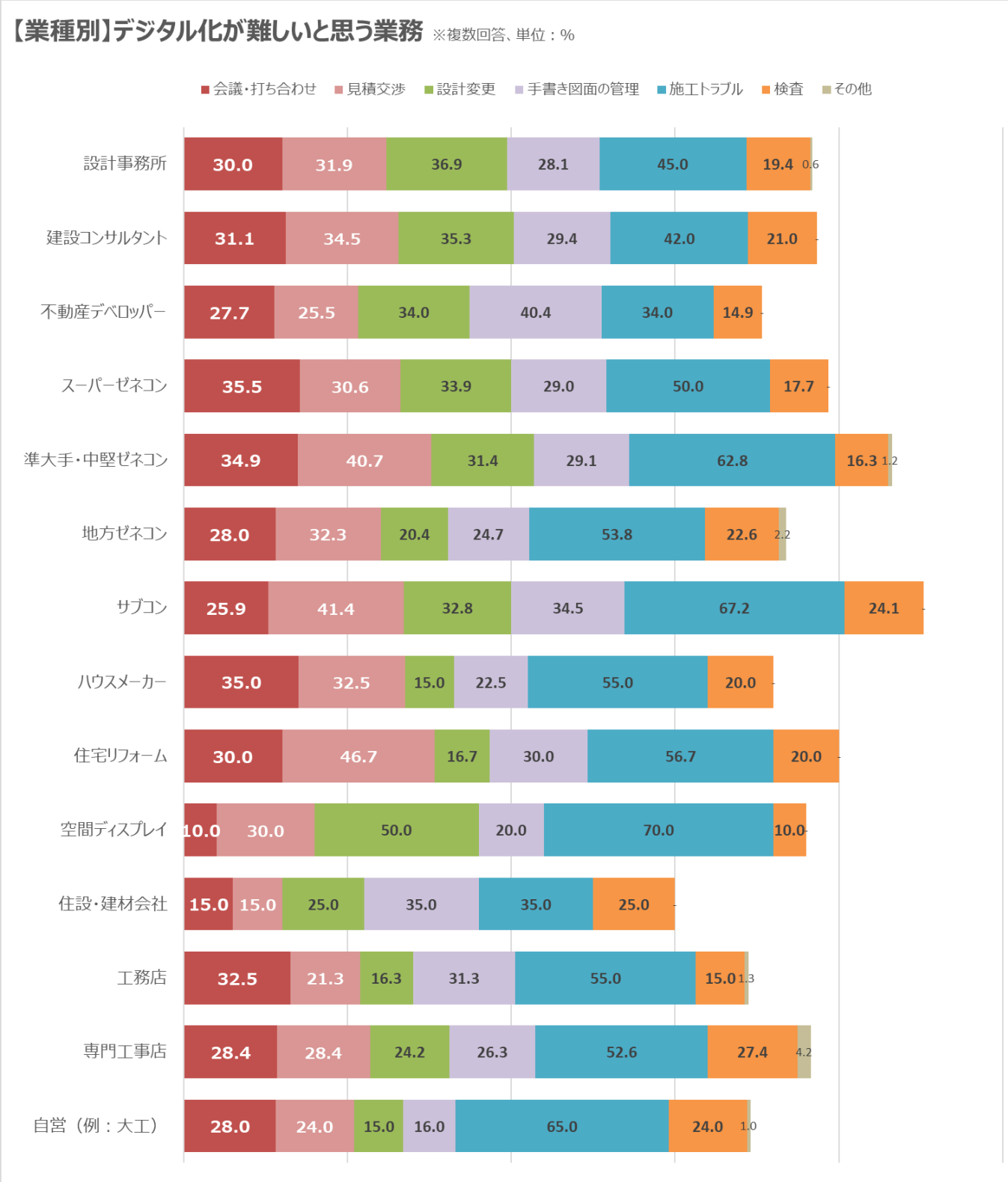
「デジタル化が難しいと思う業務」の 5 位「設計変更（27.5%）」からは、各種データ（図面など）の整合性が常に保たれる BIM 導入の遅れ（※）または BIM の利点が認識されていないことが示唆されます。

（※）建設業界従事者 1,000 人「建設業界イメージ調査」（2023/3/14）の「導入が進んでいるデジタル技術」で、BIM・CIM・CAD は 10 位中の 7 位でした。





● 【業種別】デジタル化が難しいと思う業務　※複数回答



以上

【本件に関する報道関係者からの問合せ先】
野原ホールディングス株式会社
ブランドコミュニケーション課（担当：齋藤）
E-Mail：nhrpreso@nohara-inc.co.jp